

いいくぼさおり

～悲しいから笑った、嬉しいから泣いた。そんな時がある、そんな歌がある～

ピアノ系シンガーソングライター。東京生まれ 東京在住。

3歳からピアノを始める。音大音楽科 在学中に作詞作曲ライブ活動を開始。

女子高時代に某事務所で お笑い修行 を積み漫才やコントをやっていたという異色の経歴の持ち主。



「音楽を絶対的な中心に置き、真摯に音楽と向き合って活動しています。
音楽に対して 卑屈さ・やましさは微塵もない。」

自由な発想とセンスから生み出される楽曲は単なるポップに納まりきらない。澄んだ歌声で日常の悩みや痛みに寄り添う歌を歌う

「日常の悩みや痛みに寄り添える歌を作ることが最大のテーマです。

音楽に対しては常に謙虚に食欲でいようと、プロデューサーから教えられました。だからいつもお互いの才能をぶつけあって音楽を作ってます。

切なすぎるほど切ない、と評されるスローソング、その反面 ユーモア溢れる楽曲も数多く、意外にもコミカルな歌で涙を流すファンも。そこがいくぼさおり最大の魅力かもしれません。

「売れてるアーティストと比べれば、取るに足らない音楽歴かもしれないけど、確実に自分を積み上げてきた誇れる活動です。音楽は心の積み重ねなんです。」

<主な活動歴>

- ・10年前 ZEPP-TOKYO「アサヒスーパードライ B-JAM」に新人アーティスト枠として大抜擢され出演。その様子はMTVでも放映され、それをきっかけに音楽業界で名前が広がる。
- ・2006年 初の4曲入りCD「Saoriiikubo 1」発売。TSUTAYA 全店舗でレンタル開始。
- ・2008年 1stアルバム「ハジケマシテ」は全国インディーズチャートBEST10にランクイン
バンド以外のシンガーソングライターの作品としてはかなり異例なことと話題になる。
- ・2009年 渋谷 duo ツアーファイナルワンマン 満員御礼
- ・ドラマ「愛しのファミリーユ」の主題歌を担当。(楽曲名「テトリス」)
- ・全国ツアー、渋谷 duo、マウントレーニアホールなど大箱ワンマンも満員御礼。
- ・2012年 2ndアルバム「ケッヘルの伝言」
- ・2012年 渋谷マウントレーニアホール 全国ツアーファイナル 満員御礼
- ・2013年 関東一校の 校歌(セカンドソング)を手がける。
- ・2013年 映画「SHIGEOH」で初の映画音楽を担当。
- ・2014年 短編オムニバス映画「3.11 明日 WAV」では主演を務め、全国の映画祭で絶賛。
(仏・独のテレビでも放映される)
- ・2014年 ゆるキャラで人気のふっかちゃんのテーマ曲を手がける。ふっかちゃん DVD 発売。
- ・2015年 吉本エージェンシーの子供向け新喜劇「新喜劇といっしょ」の体操ソング3曲を担当。
- ・2016年 一大イベント「歌歌」を企画主催。シンガーソングライターシーンに熱を与えたい。
- ・2016~2017年を「いくぼさおり 10th Anniversary Year」として活動中。
ワンマン、リリースなど目白押し1年に。アコフェスなどにも積極的に参加していく予定。
- ・2017年発売 ゲーム「きんとうか」 主題歌&挿入歌5曲を手掛ける
現在、3rdアルバムCD、DVD、ピアノ弾き語り集CDなどリリース準備中!

「音楽を作ることは楽しいけど、作り続けることは苦しい。だから楽しい。そう思えた時、やっとスタートラインに立てた気がした。3～4年前の話です。」

「楽しくやりたいからこそストイックになる。私はお客さんの心を揺さぶりたいんです。ジェットコースターのように。それを楽しんでもらいたいです。」

歌声・楽曲・表現など、見る者をしっかり捉える1つ1つのパフォーマンスは 従来のピアノ弾き語りのイメージを覆すはず。



「上手く歌おうとすれば 上手く歌えない。表現するためには 強い心と強い力が必要。でも弱い部分がないとつまらない。」

「ピアノは上手ければいいというものではないし、やっぱり表現力が全てです。だからこそ上手くありたい。何もない日は一心不乱にピアノを弾いてる。」

ピアノ演奏力が評価され、現代女性ピアニスト 100 人を特集した本『Woman100 ピアニスト女性演奏家達』に掲載される。(矢野顕子、フジコヘミング、綾戸智恵なども掲載。)

繊細で柔らかい音を鳴らしながらも、爽快な早弾き・テクニカルな演奏でもライブを熱くしている。

「ライブでお馴染みの『ぐるぐるマイク』やコール&レスポンス。あれは私からお客さんへのエールで最大級の感謝を込めてるんです。単なる盛り上げや勢いでやることはあり得ません。あれは私の音楽の一部です。」

アグレッシブでエンタメ性溢れるステージには定評があり今や「ぐるぐるマイク」は彼女の代名詞。





「いつか映画音楽を手掛けて、お婆ちゃんになった頃には巨匠と呼ばれ、アカデミー音楽賞をいただこうと真剣に思ってます。それが私の夢です。」

プロツールズを購入しアレンジにも取り組んでいる。曲作りにもいい影響があるとのこと。

「もっといい曲を書きたい。もっと上手になりたい。もっと多くの人に伝えたい。だからこそ本気で売りたいんです。」

「以前、フリーライブのステージで歌ってた時、20代の女性が話しかけてきたんです。『今日は自殺をするつもりでこのビルに来ました。でも、あなたの歌を聴いて、もう少し生きてみようと思えた』と。

なんというか・・・震えました。音楽は時として命にも関われるんですよね。

『音楽は世界を変える』という本当の意味を実感しました。

たった1人が存在するからこそ、何かが起こり、何かが変わっていく。

どんなに辛くても必ず希望があって、どんな状況にも必ず意味がある。

生きることの喜びを私なりに歌っていきます。」

